

令和5年度 府中市立 本宿 小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名はおおむね書くことができる。 促音、拗音、助詞「は」「を」「へ」を適切に使い、書くことに課題がある。 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができるが、自分の思いや考えを表すことに苦手さがある。 読書に親しむことはできているが、様々なジャンルの本を読むことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> カタカナや漢字が新出した際には、するため、平仮名と同様に言葉に興味をもたせ、基礎基本の時間や e ライブラリアドバンスを活用して反復練習を繰り返し行い定着を図る。 身近なことや体験したことを文章に表す機会を多く設ける。 日常的に読み聞かせを行ったり児童の興味を引く本を紹介したりして読書の推進を図る。 	B	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数の概念は概ね定着している。 1位数と1位数の計算において、理論は理解しているが正確性に課題が見られる。 文章題からの立式・答えに課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器や計算カードを使って、反復練習を行うことで定着を図る。 キーワードになる言葉に注目させたり、問題を図式化したりすることによって問題文を丁寧に読むことの習慣化を図る。 	B	
生活	<ul style="list-style-type: none"> あさがおを育てる活動を通して生活を豊かにすることができた。体験活動を多く取り入れ、自ら試行錯誤して気付きを深めることが課題である。 学校や家庭、地域のことについてのルールやマナーについて考えることができる。 体験しただけで終わってしまい、自ら振り返り、表現することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動や体験を多く取り入れ、子供たちの気づきを大切に授業を進めていく。 地域の方との交流を授業に取り入れ、地域のよさや交流することの楽しさに気付かせる。 タブレットを活用して学んだことを振り返り、自分の思いを表現する。 	B	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 曲想を感じ取りながら、表情や雰囲気などの表現を作り出すことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想の感じ取りを深めたり、必要な技能を身に付けたりしながら、感じ取ったことを基にいろいろな表現の仕方を体験するようにして、器楽表現を工夫する楽しさを味わい、思いを膨らませるように指導する。 	B	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組む児童が多くいるなかで、豊かに発想し、作品をつくることに苦勞している児童もいる。 のりや絵具など、画材や道具の使い方に慣れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの作品を鑑賞し合う時間を設けることで、発想を豊かにしていく。 使い方を毎回初めに提示し、繰り返し経験していく。 	A	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 様々な動きに親しんでおらず、基本的な動きができない児童が多い。体力についての認識が低い。 人と関わりながら体を動かしたり、よりよい動きになるよう考えたりする体験が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題や活動の場などを工夫した易しい運動遊びを行う。 運動遊びの楽しさに触れさせつつ、基本的な動きを幅広く身に付けさせる。 	B	

※達成の状況は、A:十分達成できている、B:概ね達成できている、C:あまり達成できていない、D:達成できていない

で、2学期末、年度末に評価する。

2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立 本宿 小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 順序や要点を意識して発表する内容をまとめたり、話を聞いてメモをとったり、質問をしたりすることが課題である。 自分の考えを書くことや全体場で話したり、小集団場で話したりすることが苦手な児童がいる。 既習の漢字を忘れていた児童がいるので、反復して学習に取り組み、定着させることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を互いに読み合い、より良い書き方について主体的に考えさせる。 ペアやグループなどの小集団での学習を多く設定する。聞き手に届く適切な音量や速さが身につくように、スピーチや発表の機会をとる。 継続的に漢字の指導を行う。間違いは丁寧に直させる。 漢字の読み書きや語彙力を高めるために、基礎基本タイムや家庭学習の復習だけでなく、eライブラリーアドバンスのアプリや百科事典を活用して基礎・基本的な力を定着させる。 	B	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かし、問題に積極的に取り組もうとする姿がある。 繰り上がり繰り下がりや文章問題など、まだ誤答が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の時間や家庭学習で、プリントやドリルを使って1年生時や2年生1学期の内容を反復練習し、理解の定着を図る。 位ごとに色分けし、確実に計算できるようにする。筆算の仕組みを理解できるようにする。 足し算や引き算と分かるキーワードに気付かせ、確実に立式できるようにする。 	B	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の栽培や虫の飼育をして気付いたことを絵や文を工夫してカードに記録することができる。記録の仕方や表現の工夫ができるようになることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃ作りで、記録やまとめの視点を明確にし、考えを整理したり、分かりやすく伝えたりすることができるようにする。 	A	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 楽器を使った活動は、意欲的に楽しみながら行える児童が多い。 リズムの模倣などの全体活動は、集中して取り組むことが出来ている。 鍵盤ハーモニカの学習において苦手意識をもっている児童は、運指の理解をする事が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単なリズムの繰り返し等に楽器を用いることで、達成感を味わい、楽しく活動できるようにする。 常時活動として、リズムや拍の感覚を身に付ける身体活動を取り入れる。 鍵盤ハーモニカの指導は、運指の全体指導、個別指導を随時行うことで、基礎的な力を育成していく。 	B	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 筆やクレパスなどの道具を使っての制作活動に意欲的に取り組む児童が多い。 作品のよさや面白さなど、感じたことを言葉で伝えることが苦手な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具や用具の扱い方の基礎を指導することで、イメージを形に表す楽しさを、多くの児童が味わえるようにする。 ペアやグループ鑑賞の機会を多く設け、発想や材料の組み合わせなど、互いの作品の面白さを見つけて伝え合えるようにする。 	B	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 楽しんで取り組んだり手本となる動きをしたり意欲的に取り組む児童がいる一方、体力や運動能力に個人差があり苦手意識をもつ児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が楽しく運動できるように、取り組みやすいものから提示して、様々な動きに慣れ親しめるようにする。 場の設定や声掛けを工夫する。 振り返りで学習カードを使い、自分や友達のいいところを見付け合う活動を取り入れる。 	B	

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立 本宿 小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的を意識して、考えたことや伝えたいことを明確にして書くことが苦手な児童が多い。 漢字を適切に使ったり、語彙力豊かに表現したりすることに課題をもつ児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「本宿スタイル」による授業構成から、「自分の考え」「まとめ」でしっかりと書かせる活動を繰り返し展開する。 漢字の小テスト・音読・ICTの活用などで語彙力を増やすことを家庭学習や基礎基本の時間で意図的計画的に行う。 	C	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを書いたり、説明したりすることに苦手意識をもつ児童がいる。 時刻や時間を求めることに苦手意識を持つ児童が多い。 基本的な四則計算に誤答のある児童が若干いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数のやり方（図、イラスト等）を共有し、友達のよいところを真似できるようにする。 説明に相手意識をもてるようにする。 日々の指導の中で、算数に限らず、時間に目を向けられるような問いかけを行う。 	B	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 事象に対する予想をもってはいるが、どのように表現すればよいか分からず、苦手意識をもつ児童が約半数いる。 観察・実験には興味をもち、意欲的に取り組むが、結果から考察をし、自分の言葉でまとめることが苦手な児童が半数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験と関連させながら課題提示を行い、見通しをもって実験に取り組めるようにする。 予想の文の書き方を何種類か提示し、児童が文型を選んで書けるようにする。 デジタル教材を活用し、実際に実験の方法や観察の仕方に見通しがもてるようにする。 実験後の結果を書く時間や全体での共有の時間を設け、結果を基に考察が書けるようにする。 	B	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料から読み取れることは書けるが、読み取ったことから考えられること（予想や考察）を書くことは苦手な児童がいる。 資料から分かったことをもとに、考え、話し合う活動の際、自分の考えが書けず、学び合いに主体的に取り組む児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料はグラフだけでなく、絵や写真から分かったことも含まれることを理解させ、より多くの資料を通して考えられるようにする。 デジタル教材を使い、写真や資料を大きく拡大して提示することや、映像も含めて見せることで児童がより身近に感じられるようにする。 学び合いに向かう前に自分の考えが書けるよう、思考ツールを利用しながら考えをまとめられるようにする。 	B	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱活動においては、概ね意欲的に活動できているが、新しい楽器に苦手意識をもつ児童がみられる。 鑑賞教材において、感じたことや気付いたことを自分の言葉で表現するのが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 反復学習・個別学習を行い、苦手意識を取り除き、そして達成感を味わうことができる活動を取り入れる。 感想を表現できない時は、言葉の選択肢をつくらせたり、友だちの意見を言い合ったりする活動時間を設定する。 	B	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具についての経験や技能を生かしたり、方法を組み合わせたり形をかえたりして工夫したりすることについて課題がある。 造形遊びをする活動で思い付くこと、考えることについて課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具や材料の種類を増やし、使い方を確認しながら実演したり、掲示物で表示したりし、作業を進められるようにする。 学習カードを活用し、見通しを立てて学習し、めあてと振り返りができるようにする。 造形遊びの活動を増やし、主体的に活動できるよう、グループやペアでの活動を仕組む。 自他の作品や美術作品などの鑑賞活動でよさや面白さなど、話し合う活動の時間を増やす。 	B	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動能力（鉄棒・水泳・なわとび）の個人差が大きく、苦手意識のある児童がいる。 運動や練習の仕方を工夫したり、コツや作戦を友達に伝え合ったりすることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> いい例やよくない例をお手本やNHK for schoolを見せて、ポイントを押さえて取り組ませる。 ホワイトボードやクロムブックを活用し、考えを伝えたり振り返りをさせたりする。 	C	

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立 本宿 小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章の中で適切に漢字を書くことに課題のある児童が見られる。 文章の内容を理解することはできるが、その内容を要約することが苦手である。 事実や事例と自分の考えを明確にしながら、筋道を立てて文章を書くことの苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の指導の中で、国語に限らず、学習した漢字を適切に使うように指導する。 文章中のキーワードや筆者の主張となる言葉に注目する指導を反復して行い、要約の練習をする。 自分の考えを書く際に、その根拠となる叙述や事実と自分の考えを、明確に分けて書くように指導する。 	B	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算（繰り上がり・繰り下がり・九九）の習得が不十分な児童がいる。そのため、わり算の筆算で正しい解答が出せない。 数量感覚が十分に育っておらず、問題場면을具体的に考えられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、計算練習を継続して行い、習熟を図る。 具体的に問題場면을提示したり、問題を繰り返して読ませたりして、問題解決に取り組ませる。 	B	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活での体験と、学習内容を結び付けて考えられる児童が少ない。 実験結果からどのようなことが考察されるか考えたり、文章に表現したりすることが苦手な児童がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験と関連付けて、課題提示をするなど、体験学習を重視する。 自分の考えだけでなく、友達の考えを記録したり、生活経験や以前の学習などを合わせて考えさせたりする。 	B	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料を関連付けて読み取る力に課題がある。 資料から読み取れること（分かること）と、そこからどんなことが考えられるか（考察）を分けて書くことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料読み取りの活動の際、既習の資料や別の資料と繋げて考えるための視点を、必要に応じてヒントとして出す。 資料から読み取れることとそこから考えられることを、明確に分けて書くように指導する。 	A	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 学習に興味をもち、楽しんで取り組もうとしているが、集中力が続かない児童もいる。 自然で無理のない歌い方ができている児童が多い。リコーダーの学習に苦手意識をもつ児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然で無理のない歌い方をさらに習得できるように、姿勢、声の出し方、呼吸や発音などを、楽しい活動を工夫して身につける。また、八長調の読譜にも慣れるようにする。 旋律などの特徴を生かすために、タンギングや息の使い方などの技能を身につける。 	B	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具についての経験や技能を生かしたり、方法を組み合わせたり形をかえたりして工夫したりすることについて課題がある。 造形遊びをする活動で思い付くこと、考えることについて課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具や材料の種類を増やし、使い方を確認しながら実演したり、掲示物で表示したりし、作業を進められるようにする。 学習カードを活用し、見通しを立てて学習し、めあてと振り返りができるようにする。 造形遊びの活動を増やし、主体的に活動できるよう、グループやペアでの活動を仕組む。 自他の作品や美術作品などの鑑賞活動でよさや面白さなど、話し合う活動の時間を増やす。 	B	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体力、運動能力に個人差があり、苦手意識をもっている児童がいる。 どのように体を動かしたら上手くいくのか、ポイントを考えながら活動しているが、実際にそのポイント通りに動くことが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びの場を提供し、個人のレベルに合った学習ができるようにすることで、運動の楽しさや達成感を味わえるようにする。 ICTの活用などを通して自分の体の動きを確認し、イメージ通りに動けるように指導する。 	B	

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立 本宿 小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字、語彙、語句の習得に苦手意識をもつ児童が一定数いる。 物語文の心情の読み取りはできるが、説明文を正しく読み取ることや、要旨をまとめることを苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習、家庭学習などで意図的・計画的に課題を出し、小テストなどで確認をするなど繰り返し行う。 自分の考えを深めたり、広げたりするための対話的な学習を意図的に導入する。 	B	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な整数の四則計算を正確にできない児童がいる。 文章題の内容を読み取ったり、立式したりすることに課題のある児童がいる。 思考判断表現を問われる問題になると、正答率が極端に下がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の時間及び家庭において計算練習を繰り返し実施できる環境を整え、基礎の定着を図る。 文章題を解く際、簡単な数字に置き換えたり、絵や図などを使ったりして内容を理解しやすくする方法を押さえ、立式の練習を繰り返し行う。 授業において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」のどちらを中心に指導をしているのか意識し、自力解決と協働的な学びを一体化した学習展開にする。 	C	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題に対する考察を自分なりに考え、結果との結びつきについて深く考えることが苦手である。 授業で学んだことを、身の回りの事象と結びつけて考えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> 結果を共有する場面で ICT を活用し、クラス全体で傾向を捉える時間を設ける。 予想や考察に用いるとよい言葉や文型を提示し、内容を整理しながら表現させる。 「ふり返り」や自主学習ノートなどを活用していく。 	C	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 写真やグラフ等の資料から内容を読み取る力に個人差がある。 自分の生活経験とかげ離れた社会的事象については理解するのが困難。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で写真やグラフ等の資料の読み取り方を押さえ、個人・全体での資料の読み取りを確実に取り入れる。 ICTを活用し、写真や動画から社会的事象を身近のものに捉えられるようにして理解を促す。 	B	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能面で、基礎的な力が弱い児童がいる。 曲想にふさわしい歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫してどのように演奏するかについて、思いや意図をもち、積極的に自分を表現する力において個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 旋律、リズム、速度、音色、音の重なり、読譜など基礎的なことを常時活動の中で取り入れて、さらに定着させる。 呼吸や発音に気を付けて響きのある声で歌う技能や音色に気を付けて互いの音を聴いて演奏する技能を身に付ける。また、どのように表現するかについて自分の思いや意図をもてるようにする。 	B	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法を組み合わせる工夫したりすることについて課題がある。 造形遊びをする活動で思い付くことや、考えることについて課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具や材料の使い方を確認し、掲示物で表示し、確認しながら作業を進められるようにする。 学習カードを活用し、見通しを立てて学習し、めあてと振り返りの確認ができるようにする。 造形遊びの活動を増やし、課題意識をもって、主体的に活動できるように、グループやペアでの活動を仕組む。 自他の作品や美術作品などの鑑賞活動でよさや面白さなど、話し合う活動の時間を増やす。 	B	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 何度も繰り返し、触れ、親しむことによって技能習得・活用に意欲が持てている。その反面、苦手意識が強く表れている児童もいる。 日常生活の中から問題を見だし、よりよい生活を考え、実践することが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品作りを通して、何度も繰り返し、技術指導を個別にし、楽しみながら意欲的に挑戦する気持ちを持たせる。 家庭科の学習の様子、ねらいを家庭にも伝え、家庭と連携をしながら授業を進めていく。 	B	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体力や運動能力に個人差があり、苦手意識をもっている児童もいる。 技術の習得に至っていない児童も多い。 よりよい動きにしていくためには何が必要であるかを考え、次の活動に生かしていくことが苦手な子も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動量を十分に確保し、様々な運動を経験して主体的に取り組めるようにする。 友達の動きの良いところを見つれたり、友達からアドバイスをもらったりする学び合いの学習を生かし、技術の向上につなげていく。 	B	

令和5年度 府中市立 本宿 小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くこと・話すこと・やりとりの領域で理解している単語や表現であっても、読む・書く領域では、努力を要する児童もいる ・新出語彙の習得に必要な練習時間の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味がある題材で、既習表現を使って、相手と考えや気持ちを伝え合う復習の時間を単元に関係なく設ける。 ・クロムブックを使った反復練習や個別の学びの時間をとる。 	B	
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	--

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立 本宿 小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」の単元では、書く題材が見つからない、構成が明確でなくまとめられない、苦手意識のある児童などが見られる。 6年生までの既習漢字の定着が不十分な児童や語彙力の乏しい児童が見られる。 説明文の読み取りが不十分な児童が見られ、内容を正確に読み取り、要旨をまとめることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 取材メモや構成メモなどを活用し、筋道立ててまとめられるようにする。また、目的意識をもたせ、意欲的に取り組めるように工夫する。 家庭学習や基礎基本の時間に反復練習をし、定着を図る。授業に言語的学習を意図的に取り入れ、意味調べ等の児童の主体的な活動を増やす。 キーワードとなる言葉や接続詞、段落のつながりに着目させたり、事実と意見を区別させたりしながら、見通しをもって個々に読み取りを進められるようにする。 	B	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 既習の計算学習の定着差が大きく、前単元の復習が必要である。 文章題において、問題文から内容を読み取り、立式まで至らない場合がある。 見通しをもって作図ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習プリントやドリル等を利用し、家庭学習などで取り組ませ、基礎の定着を図る。 文章題を解く際、数直線図や4マス関係表を使って問題を正しく読み取り、立式を行うという課題に繰り返し取り組ませる。 見通しをもち、順序よく丁寧に描くように声掛けを行う。 	C	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自分の予想を立てることは出来ているが、実験の結果から考察することができない児童が見られる。 観察や実験したことが知識として定着していないことがある。 問題文から必要な情報を読み解くことができず、問題の実験の状況を理解できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の結果から、事前に立てた予想と比べ、振り返る。実験結果を基に、自分の考えをもたせ、深く理解できるようにする。 観察や実験をしたあとに、それらから得たことをノートにまとめ、言葉と結び付けられるようにする。また、それを実生活の事象で想起させ、定着させる。 文章題を繰り返し解くことで必要な情報を読み解く力を高める。 	B	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 歴史資料の読み取りに課題がある。 社会的事象の意味や人物名などの知識の習熟に課題がある。 前時からの学習事項が積み重ならない。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表を読み取る学習や資料を活用する学習を適宜取り入れ、必要な情報を読み取る力を高める。 既習事項や前時の学習を本時とつなげながら、繰り返し社会的事象の語句や内容に触れていくよう指導する。 本時の内容を振り返り、次時に向けて文章などにまとめる機会を設ける。 	B	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な技能や音楽における知識が足りない児童が一部いる。 曲想にふさわしい歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫してどのように演奏するかについて、自分から深めようとするのを苦手とする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 旋律、リズム、速度、音色、音の重なり、読譜など基礎的な知識理解の時間を常時活動の中で取り入れて、楽しみながら技能を身に付けさせる。 自然で無理のない響きのある歌い方や、楽器の重なり合う響きに気を付けながら、声や楽器の音を合わせる楽しさや表現する喜びを味わい、自分の思いや意図をもてるようにする 	B	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法を組み合わせて工夫したりすることについて課題がある。 造形遊びをする活動で思い付くことや、考えることについて課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具や材料の使い方を確認し、掲示物で表示し、確認しながら作業を進められるようにする。 学習カードを活用し、見通しを立てて学習し、めあてと振り返りの確認ができるようにする。 造形遊びの活動を増やし、課題意識をもって、主体的に活動できるように、グループやペアでの活動を仕組む。 自他の作品や美術作品などの鑑賞活動でよさや面白さなど、話し合う活動の時間を増やす。 	B	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> トートバック作りを通して、これまでに習得した技術を工夫しながら生かし、意欲的に取り組んでいる。しかしミシンの糸掛けに苦手意識をもっている児童が多い。技能を身に付けることはできているが、生活の中から課題を設定して解決する力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ミシンの使い方について繰り返し、DVD、ビデオ撮影などにより指導する。糸掛けテストなどを実施し、徹底的に理解させるようにする。 空間軸・時間軸という二つの視点からの学習対象を明確化する。 学習した知識・技能を実生活で活用するために家庭や地域と連携を図る。 	B	

令和5年度 府中市立 本宿 小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

体育	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の運動能力に差があり、技能習得に至らない児童もいる。 ・友達の良い点や改善点に気付きにくい。したがって、自分の技能向上に生かせない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動に取り組みせ、体を動かすことに慣れさせる。 ・手本となる児童のポイントを意識させるため、見る視点を明確にする。また、ICTを使い視覚的に自分の動きを客観視できるようにする。 	B	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くこと・話すこと・やりとりの領域で理解している単語や表現であっても、読む・書く領域では、努力を要する児童もいる。 ・新出語彙の習得に必要な練習時間の差が大きく、既習の基本文を使えていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元に関係なく、既習表現を復習する時間を取り、児童の興味がある題材でペア活動を多く設ける。 ・クロムブックを使った反復練習や個別の学びの時間をとる。 	B	

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。